

掌編集

「シム」

1.

また貴方にお逢い出来ましたね、ええとても嬉しく思っています。

さてと、本日は何をなさいますでしょうか？

縦書き、横書き、表、絵、記号、

何でも色々な事を書いたり描いたりしてくださいまし、

色も、線も、貴方にも私にも無限の可能性がありますよ。

……ええ、楽しそうで何よりでございます、

反復も大事ですし、創造も大切ですね。

あ、そういえば、1つお尋ねしたいのですが、

たまに隅の方に小さく書かれる女性の御名前、

あれはなんでしょうか？…はあん、なるほど、

左様で御座いますか、ええええ…

…おっと、そろそろ御時間ですね、御母堂の声が聞こえて参りましたよ、ええ勿論です、これからも色んな事をもっと、もっと…

はい、それでは、また。

ピッチを上げて、ロールで機体を左右に振って、ラダーを踏んで向きを変えて……

なんて高度な事は出来ないけれど、

それでも俺は今こうして大空でダンスを踊っている。

主翼が風を切り、確実に前へ前へと進んでいるんだ、

こうなる前の俺は何にでもなる事が出来た、鶴にも奴や袴にもなれた

しかし創造主は俺を飛行機と定義した。

あいつの機体よりも、速く遠くへ行けるようにとつくられた。

方位よし、風向きよし、発艦準備完了、発進……

同型のライバル機よりも、もっともっと遠くへ、上手く気流に乗って、

時には地表ギリギリ砂漠の上をフライトすることや

ジャングルジムや樹上などの高所から発艦することもあった。

胴体着陸の後、毎回母艦を待つ間にもう一度、もう一度あの大空へと強く願っている

次は、次も、あいつに負けないようにと、

そうして幾度も幾度も、俺は空を舞う。

僕たちは必ず双子でこの世に生を享ける、必ずだ。

しかし早々に片割れは居なくなってしまうんだ、そうこれも必ずなんだ。

片割れがどうなってしまうのか、それを僕は知らない。

片割れが居なくなつた僕は孤独だ。

心の一面が離れ、その一面はとでもギザギザしている。

そのまま終わつた状態で捨てられてしまうものも数多く居る、でも、でもね少なからずの確率でカードと革の間に挟まって違う世界に行ける可能性もあるんだ。

幸運にも連れ帰られて、沢山の片割れが居ないもの同士に逢えたら、凄く嬉しいんだろうな、多分、きつとね。

そして時折その沢山の思い出達と一緒に懐かしんで貰えたら、うん。

次は誰と何処へ行かれるのでしょうか？

開かれて、目が醒めて、はい、どうもこんにちは、本日はどういったご用向きで？

ええ、はいはい、勿論ちゃんと御座いますよ、

此方、今迄のものたちはちゃんと我が身に納めておりますぞ。

はい、追加で御座いますね、お、貴方ですか？

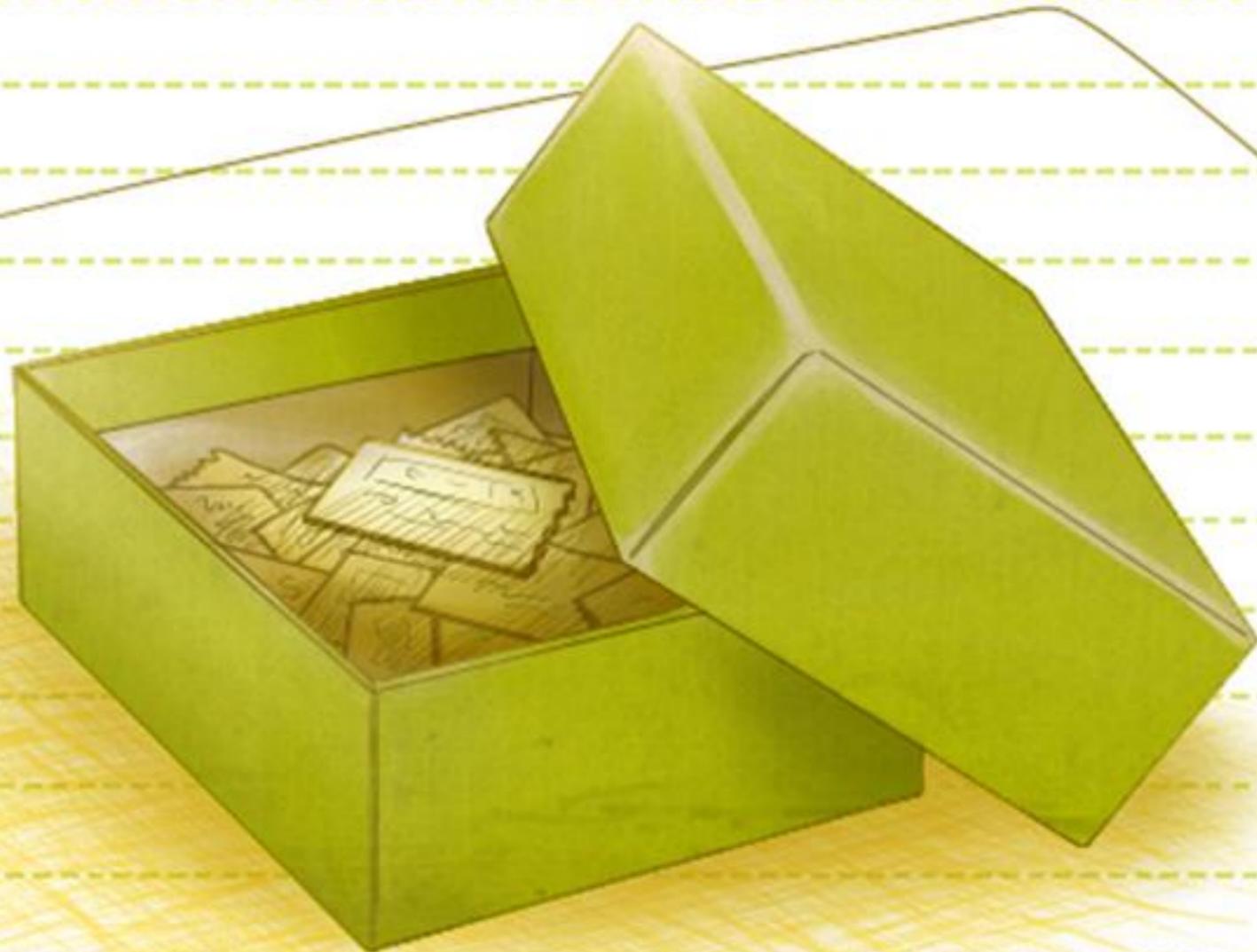
どうぞどうぞお入りなさい、ご心配なく、大丈夫です寂しくなぞ御座いませんよ。

ああ、はい、どうぞどうぞ今迄のものたちをご覧になって、  
そして思い出してくださいませ、楽しいもの、哀しいものも、

あの日あの時、ええ、懐かしき思い出たちですね、

はい、本日はもう宜しいのですね、ではまた、いつの日にか、

では、みなさまも、おやすみなさい……



シユルルルツつと、 ああ、 やつと拘束が解かれた、

ふう：：いや、 ね、 気付いたら丸められてたんですよ：：

え、 いや、 ちよつと何をなさるんですか、 あだだだだ、

もお、 突然逆に巻かれたら痛いじゃないですかっ

：：あ、 でも、 やつと少し真っ直ぐになったかな：：

未だちよつと端っこがくるってなってますけど。

はいはいはい、 私の場所は此方なのですね、 おっ真剣ですなえ、 仮止めして、  
離れて見て、 どう？ 水平垂直は？ 大丈夫？ オツケーオツケー

そのあと、 四肢をしつかりと壁に貼り付けられて、

以来、 私はずっと虚空を見つめている、

最初の頃こそ様々な人と眼が合う事があつたけれど、

何時からか段々と色褪せて、 其れでも私は其処に存在し続け、

極稀に憐憫の情を含んだ視線や懐かしいなと云う声を聴く

それでも、今日も変わらず私は私であり続けている。

この世界の深淵にみるであろう真実を求めている。

私は推敲に推敲を重ねられた、そう完成体。

いや完全体とも云うべき存在である。

正しき想いを伝え、そして正しき答えを得るために、

幾度も幾度も書き直され書き換えられた、

何度も何度も転生を繰り返し、

ついで今あるこの形態へと落ち着いたのだ。

この後、私は封を施され、目標へと向けて片道の長き旅路に出る……

赤き箱を経由し、幾人もの手を渡り、

辿り着いたのは銀の箱、待つこと数時間、最後の人によって封が解かれた。

ああ久方ぶりの外気だ、おっ、貴女様で御座いますね、

さあお読みくださいませ……おや？

何故そのような驚愕の顔をなさっているのですか、

私には解りかねます、その頬の紅潮はどういう意味なのでしょう……？

…え？あの、いや、え？

両隣には同じ存在が、その隣にも更に隣にも、そして今日は私が選ばれた。

麗らかな午後に、私はドリッパーにセットされた、

隣ではゆっくりとハンドミルのハンドルが廻されている、

グアテマラ産の豆を丁寧にシテイローストしたものが中挽きにされ、

それが私の内におさまる、コンコンと縁が叩かれて表面が均一になり、

水がしつかり沸いたものが細口のポットから注がれて私の内で粉が十分に脹らむ、

そして抽出されたものが私をゆっくりと通過し、更に湯が注がれる

熱に耐える私は門番である、通すと通さざるを選別し、

サーバーには悪魔的な黒き溜まりを徐々に拵えていく、

ある程度の所で私たちは取り外され、サーバーは少しだけ火に掛けられ、

最後にマグカップへと注がれた。

どうです？美味しいでしょう、私はちゃんと仕事をこなしましたよ。

明日の私もちゃんとする筈。多分ね

燃えて燃えて、灰になるだけ、吸って吐かれて、塵は塵に。

絡めとられて引き抜かれた、柔らかな肌と肌に啞えられた。

蓋が開きオイルの芳香が近づいてきた、

フリントが瞬いて蒼と橙の炎が眼前に現れる、其処で一呼吸、

ZIPPOから先端に火が移り、一瞬、煙を出さずに燃焼する。

煙が香りとともに広がって、空間と身体の両方を満たしていく、

血中を駆け巡り、烟る、晴れる、晴れて、そしてまた烟り。

それらが幾度となく繰り返され、徐々に骸が溜まっていく、

時に浅く喫まれ、時に深く嗜まれる。

どうだい？ 酩酊したら世界が少しは変わった風に見えたかい？



毎夜、私は目を覚ます、紐を解かれ、開かれて。

今日も1日お疲れ様でした、

ねえねえ今日という日はどうだった？ 沢山教えてよ、  
うんうん、そっかそっか、それは良かったね。

あ、そうだ、昨日言ってたのはどうなったの？

えー、そんなの大変じゃん……

そんな風に、一緒に喜んだり、悲しんだり、悩んだり、

怒ったり、どうしようもなく涙を流した日もあった、  
なんだか色んな事があったよね、

対話の中で多くの感情が幾らか私にも理解るようになったよ。

本当に貴女で良かったと思ってる、

途中で一度飽きられた時は本当にどうしようかと、  
でも帰ってきてくれて嬉しかったなあ。

最後まで付き合ってくれてありがとう、次の私にも宜しくね。

あつ、そうだ、たまには読み返してくださいね、お願いします。

人と人を繋ぎ合わせるのが私どもの御役目で御座います。

真剣な表情で1人目は真面目に筆を走らせた、

そんな様子を隣で眺めていた2人目は微笑みを絶やさずに書き上げた。

そして3人目、幼少からの親友は、

間違えてはいけないと緊張の面持ちで筆を取った。

対照的に4人目の同僚はなんとも気楽な調子で滑らかに書いた。

そうして4種類の筆跡と4種類の判が揃い、

私は私の本懐をなす為に、更なる人手へと渡る。

あの日の貴方とあの日の貴女に、

今日という特別な日を、おめでとうございます、

いつまでもお幸せにね。

紙片の一枚で何がかわるって……？

……さあ、どうなんでしょう。

貴方はどう思われますか？



978XXXXXXXXXX



192XXXXXXXXXX



著:猫のpochi

画:眼鏡